

簡易健康調査質問紙票による少年鑑別所収容年少少年の
情緒障害のスクリーニング森 忠 繁¹⁾・外 川 勝 巳²⁾
林 正³⁾・板 持 紘 子³⁾Screening of Emotional Disturbances for Lowteens who Were Committed to a Juvenile Classification Office
by the Simplified Medical Index–health QuestionnaireTadashige MORI¹⁾, Katsumi TOGAWA²⁾
Tadashi HAYASHI³⁾, and Hiroko ITAMOCHI³⁾

At the present time the frequency of juvenile delinquency has reached a third peak in Japan. Lowteen delinquents have increased in number and a large number of juvenile criminal offences have been committed by junior high school children. Thirty five lowteens (from 14 to 15 years of age), who were committed to a Juvenile Classification Office (21 boys and 14 girls from 14 to 15 years of age), and the same number of control children, who were matched by sex and age, were investigated by a Simplified Medical Index–health Questionnaire for screening maladjusted children at Junior High School.

The numbers of items in which the delinquency group showed higher rates of “yes” responses than the control group were 7 for boys and 10 for girls in physical symptoms, and 12 for boys and 7 for girls in mental symptoms. The delinquency group has kept a high state of anxiety and tension, and complained a large number of items on M section (maladjustment), O section (anxiety), Q section (anger), and R section (tension). Many complaints caused by disturbances of autonomic function were found in the female delinquency group. The delinquency group manifested many complaints and remarkably large TYR (total yes responses). Regarding the distribution of four types of “the extent of complaints” i.e. emotional disturbances, type I and II were more frequent in the control group than in the delinquency group, and type III and IV were more frequent in the delinquency group than in the control group. The Simplified Medical Index–health Questionnaire is very useful to screen emotional disturbances of lowteens.

Key words : Simplified Medical Index–health Questionnaire, emotional disturbances, screening, Juvenile Classification Office, lowteen,
簡易健康調査質問紙票、情緒障害、スクリーニング、少年鑑別所、年少少年

受付 平成14年6月28日, 受理 平成14年9月18日

1) 近畿福祉大学 〒679 2217 兵庫県神崎郡福崎町高岡1966 5

2) 国学院大学文学部 〒154 0017 東京都世田谷区世田谷4丁目28 1

3) 滋賀大学教育学部 〒520 0862 大津市平津2丁目5 1

はじめに

本調査実施当時の昭和62年における刑法犯少年（触法少年を含めて）は全刑法犯検挙人員の28.2%を占め、年齢別構成比は18歳以上20歳未満の年長少年が12.2%、16歳以上18歳未満の中間少年が29.2%、14歳以上16歳未満の年少少年が40.7%であり、14歳未満（触法少年）が17.9%であった¹⁾。平成12年の刑法犯少年は66.7%を占め²⁾、刑法犯少年のうち中学生の割合が大きく、非行の低年齢化が続いている³⁾⁻⁷⁾。最近の少年非行は従来と異なったパターンを示している。過去に非行歴がないものが全体の約半数（平成11年では45.5%）を占め、目立たない「普通の子」が内面に不満やストレス等をかかえ、何らかの要因によって爆発的に非行を起こす新しい型の非行が生じてきた⁸⁾。少年の非行ないし逸脱行動は子どもの家庭的・社会的環境の形態的、質的变化と個々の子どもの生物学的特性によってある程度規定される適応障害との相互作用的な心理的関わりにより形成されると考えられている⁷⁾⁻⁹⁾。

CMIは不適応、情緒障害のスクリーニングに有用であることが知られている^{10),11)}。少年鑑別所収容少年にCMIを適用して、多訴で不適応、情緒障害を示したことが報告されている¹²⁾。著者が作成した中学生年齢をおもな対象とする簡易健康調査質問紙票（以下に簡易質問紙票と記す）はCMIと類似の因子構造を有し¹³⁾、情緒不安定、神経症傾向の強い登校拒否症の早期発見に有用であることはすでに報告した¹⁴⁾。「はい」応答率、各区分毎の「はい」応答数平均、「はい」応答総数（TYR）平均、「症状の多さの程度」による型分布は、登校拒否群では対照群より有意の差が大きく¹⁴⁾、児童相談所クライアント群の場合では対照群との間で有意の差は認められなかった¹⁵⁾。

非行少年（少年法第3条に規定されている少年）は健全な育成のために警察、検察庁、家庭裁判所、少年鑑別所、少年院、少年刑務所、地方更生保護委員会、保護観察所等の機関でそれぞれの段階に応じて処理、処遇される¹⁶⁾。少年鑑別所は、家庭裁判所の観護措置の決定により送致された少年等を収容するとともに、家庭裁判所の行う少年に対する調査及び審判並びに保護処分の執行に資するため、医学、心理学、教育学、社会学等の専門的知識に基づいて少年の資質の鑑別を行っている^{16),17)}。簡易質問紙票を少年鑑別所収容年少少年（14歳以上16歳未満）に適用して、その訴えの特徴、「症状の多さの程度」による型分類の頻度分布の特性などから、簡易質問紙票が新しい環境への不適応

傾向や情緒不安定性などのスクリーニングに有効か否かを検討した。

対象および方法

全国に53カ所ある少年鑑別所のうちの1少年鑑別所に昭和62年2月～3月に収容された中学生年齢に相当する14歳と15歳の年少少年35名（男子21名、女子14名）を対象に簡易質問紙票調査を行った。調査は少年鑑別所の法務教官を通じて、入所後1～2週間の時期に調査の目的と個人の秘密の保持についての説明後、簡易質問紙票に自記させた。少年鑑別所収容年少少年を非行群とし、滋賀大学教育学部附属中学の2年（14歳）129名（男子67名、女子62名）、3年（15歳）126名（男子67名、女子59名）から、年齢、性をマッチさせて無作為に抽出した男子21名、女子14名の計35名を対照群として同様に簡易質問紙票に自記させた。

簡易質問紙票の各質問項目の「はい」応答率、A～Rの各区分の「はい」応答数の平均、「はい」応答総数（TYR）の平均、「症状の多さの程度」の型分類の頻度分布を非行群と対照群との間で比較した。データの集計、統計解析にはSPSS¹⁸⁾を用いた。

成績

Table 1は簡易質問紙票の各質問項目の「はい」応答率を非行群と対照群を男女別に比較して χ^2 -検定の結果を示している。全73項目中非行群の「はい」応答率が危険率5%以下で有意に高かった質問項目は、男子が19項目、女子が17項目であった。対照群より非行群に高い「はい」応答率は、男子ではM～Rの精神症状が12項目で、A～Lの身体症状7項目より多く、女子ではA～Lの身体症状が10項目で、M～Rの精神症状の7項目より多かった。非行群に危険率0.1%以下で特に大きな有意差で高い「はい」応答率を示した質問項目は、男子では「25. 疲れてぐったりすることがありますか」、「27. ちょっと運動や勉強しただけでも疲れませんか」、「44. 見知らぬ人や場所が気になりますか」、「46. いつも相談する相手がそばにいてほしいですか」、「64. 人からささずされると腹がたちますか」、「65. 人からじゃまされていらいらしますか」、「66. ひどく腹を立てることがありますか」、「70. 夜中に急に物音がしたりするとおびえますか」、「71. こわい夢で目のさめることがありますか」であり、女子では「8. 胸や心臓のところに痛みがありますか」、「20. 肩や首すじがこりますか」、「44. 見知らぬ人や場所が気になりますか」、「51. よく泣きますか」、「61. すぐかっとなったりいらいらしたりします

簡易健康調査質問紙票による少年鑑別所収容年少少年の情緒障害のスクリーニング

Table 1 Comparison with rates of "yes" response between the control and the delinquency group by sex.

Sercton	Item	Boys (%)				girls (%)				
		Contorol	Delinquency	Whole boys	p of χ^2 -test	Contorol	Delinquency	Whole girls	p of χ^2 -test	
A	1. 遠くを見るのにメガネがいらいますか	23.8	14.3	19.0	0.6944	28.6	21.4	25.0	1.0000	
	2. いつも耳鳴りがしますか	0.0	14.3	7.1	0.2308	0.0	14.3	7.1	0.4631	
B	3. いつも鼻がつまっていますか	14.3	19.0	16.7	1.0000	0.0	7.1	3.6	1.0000	
	4. よくのどが痛んだり、へん桃せんがはれたりしますか	14.3	28.6	21.4	0.4520	21.4	42.9	32.1	0.4183	
	5. ぜんそくがありますか	0.0	9.5	4.8	0.4687	14.3	7.1	10.7	1.0000	
C	6. 医者から血圧が高いと言われたことがありますか	0.0	0.0	0.0	1.0000	0.0	7.1	3.6	1.0000	
	7. 医者から血圧が低すぎると言われたことがありますか	4.8	4.8	4.8	1.0000	7.1	42.9	25.0	0.0809	
	8. 胃や心臓のところに痛みがありますか	4.8	9.5	7.1	1.0000	7.1	64.3	35.7	0.0058	
	9. 心臓がドキドキすることがよくありますか	23.8	57.1	40.5	0.0593	14.3	57.1	35.7	0.0486	
	10. 心臓が非常に早くうつことがありますか	9.5	9.5	9.5	1.0000	0.0	35.7	17.9	0.0484	
	11. よく息苦しくなることがありますか	9.5	28.6	19.0	0.2385	7.1	57.1	32.1	0.0152	
	12. 他人より息切れしやすいですか	4.8	42.9	23.8	0.0112	21.4	35.7	28.6	0.6757	
	13. 時々座っていても息切れすることがありますか	0.0	0.0	0.0	1.0000	0.0	7.1	3.6	1.0000	
	14. 足がひどくむくむことがありますか	0.0	14.3	7.1	0.2308	0.0	14.3	7.1	0.4631	
	15. 医者から心臓が悪いと言われたことがありますか	4.8	9.5	7.1	1.0000	7.1	14.3	10.7	1.0000	
	D	16. いつも食欲がないですか	4.8	0.0	2.4	1.0000	0.0	21.4	10.7	0.2217
		17. よく間食しますか	66.7	57.1	61.9	0.7507	57.1	71.4	64.3	0.6933
		18. よく胃が痛みますか	4.8	28.6	16.7	0.0977	14.3	57.1	35.7	0.0486
		19. よく下痢をしますか	14.3	9.5	11.9	1.0000	0.0	28.6	14.3	0.1052
E	20. 肩や首すじがこりますか	19.0	52.4	35.7	0.0533	14.3	78.6	46.4	0.0024	
F	21. よく皮ふにじんましんがでますか	9.5	9.5	9.5	1.0000	0.0	14.3	7.1	0.4631	
G	22. よくひどい頭痛がしますか	9.5	9.5	9.5	1.0000	0.0	42.9	21.4	0.0213	
	23. つめをかむくせがありますか	23.8	61.9	42.9	0.0291	7.1	42.9	25.0	0.0809	
I	24. 疲れてぐったりすることがよくありますか	38.1	52.4	45.2	0.5352	57.1	78.6	67.9	0.4183	
	25. 運動や勉強すると疲れきってしまいますか	4.8	57.1	31.0	0.0008	28.6	64.3	46.4	0.1296	
	26. 朝起きるといつも疲れきってしまいますか	23.8	33.3	28.6	0.7327	21.4	21.4	21.4	1.0000	
	27. ちょっと運動や勉強しただけでも疲れませんか	4.8	47.6	26.2	0.0050	14.3	50.0	32.1	0.1055	
	28. ひどく神経が疲れきっていますか	4.8	9.5	7.1	1.0000	7.1	28.6	17.9	0.3237	
J	29. よく病気で寝こみますか	0.0	9.5	4.8	0.4687	14.3	28.6	21.4	0.6451	
	30. いつもからだの具合が良くないですか	4.8	9.5	7.1	1.0000	0.0	35.7	17.9	0.0484	
	31. 病弱なほうですか	0.0	19.0	9.5	0.1148	14.3	14.3	14.3	1.0000	
	32. ひどい痛みで運動や勉強ができないですか	4.8	4.8	4.8	1.0000	0.0	0.0	0.0	1.0000	
	33. 自分の健康のことが気になって仕方ないですか	4.8	42.9	23.8	0.0112	0.0	42.9	21.4	0.0213	
	34. いつも病気がちで楽しくないですか	9.5	14.3	11.9	1.0000	0.0	14.3	7.1	0.4631	
K	35. 何か慢性的の病気がありますか	14.3	14.3	14.3	1.0000	7.1	0.0	3.6	1.0000	
	36. けがをしやすいですか	9.5	42.9	26.2	0.0352	0.0	42.9	21.4	0.0213	
L	37. 寝つきが悪かったり、眠ってもすぐ目をさましやすいですか	14.3	47.6	31.0	0.0452	21.4	57.1	39.3	0.1217	

Sercton	Item	Boys (%)				girls (%)			
		Contorol	Delinquency	Whole boys	p of χ^2 -test	Contorol	Delinquency	Whole girls	p of χ^2 -test
M	38. 試験のときや質問される時に汗をかいたりふるえたりしますか	14.3	33.3	23.8	0.2771	7.1	28.6	17.9	0.3237
	39. 目上の人が近づくととても緊張してふるえそうになりますか	4.8	38.1	21.4	0.0241	0.0	7.1	3.6	1.0000
	40. 目上の人が見ていると仕事がさっぱりできなくなりますか	9.5	33.3	21.4	0.1325	28.6	14.3	21.4	0.6451
	41. 物事をいそいでしなければならぬ時は頭が混乱しますか	19.0	42.9	31.0	0.1818	42.9	64.3	53.6	0.4485
	42. 少しでも急ぐと誤りをしやすいですか	23.8	38.1	31.0	0.5044	42.9	57.1	50.0	0.7055
	43. いつも指示や命令をとり違えますか	4.8	38.1	21.4	0.0241	14.3	21.4	17.9	1.0000
	44. 見知らぬ人や場所が気にかかりますか	9.5	52.4	31.0	0.0076	7.1	64.3	35.7	0.0058
	45. いつも決心がなかなかつきませんか	33.3	61.9	47.6	0.1224	42.9	64.3	53.6	0.4485
	46. いつも相談する相手がそばにいてほしいですか	23.8	81.0	52.4	0.0007	35.7	78.6	57.1	0.0562
	47. 人からは気がきかないと思われていますか	14.3	28.6	21.4	0.4520	7.1	28.6	17.9	0.3237
N	48. よそで食事をするのが苦になりますか	14.3	9.5	11.9	1.0000	14.3	14.3	14.3	1.0000
	49. 人の集まりに出ても一人ぼっちな感じがして悲しいですか	19.0	28.6	23.8	0.7171	7.1	21.4	14.3	0.5892
	50. いつもみじめな感じでゆううつですか	14.3	23.8	19.0	0.6944	0.0	21.4	10.7	0.2217
O	51. よく泣きますか	0.0	23.8	11.9	0.0567	0.0	64.3	32.1	0.0012
	52. いつもくよくよしますか	9.5	23.8	16.7	0.4076	7.1	28.6	17.9	0.3237
	53. ちょっとしたことでも気になって仕方がないですか	19.0	52.4	35.7	0.0533	50.0	42.9	46.4	1.0000
P	54. 人から神経質だと思われていますか	0.0	33.3	16.7	0.0130	21.4	21.4	21.4	1.0000
	55. ひどいほにかみやがあるいは神経過敏なほうですか	4.8	14.3	9.5	0.5991	14.3	14.3	14.3	1.0000
	56. 感情を書しやすいですか	0.0	28.6	14.3	0.0275	7.1	50.0	28.6	0.0365
	57. 人から批判されるとすぐ心が乱れますか	19.0	47.6	33.3	0.1017	21.4	35.7	28.6	0.6757
Q	58. 人から気むずかしやだと思われていますか	0.0	4.8	2.4	1.0000	21.4	21.4	21.4	1.0000
	59. 友達にも気を許さないですか	4.8	14.3	9.5	0.5991	14.3	0.0	7.1	0.4631
	60. 仕事(勉強)をしようと思っただけでもたってもおれなくなりますか	4.8	14.3	9.5	0.5991	0.0	14.3	7.1	0.4631
	61. すぐカッとなったりいらいらしたりしますか	23.8	42.9	33.3	0.3261	14.3	78.6	46.4	0.0024
	62. いつも緊張していないと取り乱しますか	0.0	19.0	9.5	0.1148	7.1	0.0	3.6	1.0000
	63. ちょっとしたことがカンにさわって腹がたちますか	14.3	57.1	35.7	0.0100	21.4	21.4	21.4	1.0000
	64. 人からさしずされると腹がたちますか	4.8	57.1	31.0	0.0008	28.6	50.0	39.3	0.4390
	65. 人からじゃまされていらいらしますか	38.1	90.5	64.3	0.0013	28.6	64.3	46.4	0.1296
R	66. ひどく腹を立てることがよくありますか	19.0	38.1	28.6	0.3055	21.4	28.6	25.0	1.0000
	67. いつも緊張していらいらしていますか	0.0	23.8	11.9	0.0567	0.0	7.1	3.6	1.0000
	68. 急な物音でとび上がるように驚いたりふるえたりしますか	4.8	28.6	16.7	0.0977	14.3	57.1	35.7	0.0486
	69. どなりつけられるとすぐんでしまいますか	14.3	42.9	28.6	0.0877	28.6	14.3	21.4	0.6451
	70. 夜中に急に物音がしたりするとおびえますか	4.8	52.4	28.6	0.0021	14.3	71.4	42.9	0.0075
	71. こわい夢で目のさめることがありますか	9.5	57.1	33.3	0.0032	0.0	71.4	35.7	0.0004
	72. よく何の理由もなく急におびえたりしますか	0.0	19.0	9.5	0.1148	0.0	14.3	7.1	0.4631
	73. 突然ひや汗のでることがありますか	0.0	28.6	14.3	0.0275	7.1	0.0	3.6	1.0000
Number of subjects		21	21	42		14	14	28	

か、¹「70.夜中に急に物音がしたりするとおびえますか」、²「71.こわい夢で目のさめることがありますか」であった。

Table 2は簡易質問紙票のA～Rの各区分、A～Lの身体症状、M～Rの精神症状、「症状の多さの程度」の判別に用いられるC+I+J、M～R、C+I+J+M～RおよびTYRなどの平均「はい」応答数を非行群と対照群とで男女別に比較し、t検定の結果を示している。男子ではA、B、D、F、Nの5区分以外、女子ではA、B、F、I、O、Pの6区分以外の平均「はい」応答数が非行群に有意に大きかった。特に「症状の多さの程度」の判別に用いるC+I+JおよびM～Rの平均「はい」応答数は男女ともに両群間の差が大きかった。TYRの平均は、男子では非行群22.1429、対照群8.0476、女子では非行群25.2587、対照群10.0000でいずれも0.01%以下の危険率で有意差が認められた。

Table 3は情緒不安定、神経症傾向を示す指標となる「症状の多さの程度」の型別の頻度分布を非行群と対照群との比較を示している。男子では、非行群は型4.8%、型14.3%、型33.3%、型47.6%に

し、対照群は型47.6%、型28.6%、型23.8%、型0%であった。女子では、非行群は型0%、型7.1%、型50.0%、型42.9%に対し、対照群は型42.9%、型28.6%、型28.6%、型0%であった。非行群では男女ともに型と型が圧倒的に多い分布を示した。

考 察

1) TYR と情緒障害

簡易質問紙票の「はい」応答数は非行群が対照群より著しく大きい。児童相談所のクライアント群のTYRは対照群と有意差が認められなかった¹⁵⁾。クライアント群と本報告の非行群のTYRを比較してみると、クライアント群男子12.06±9.07 (n=24)、女子13.82±7.16 (n=17)より非行群男子22.14±11.03 (n=21)、女子25.29±7.70 (n=14)が著しく大きい。少年院、少年鑑別所収容少年および対照の民間企業の養成学園男子生徒におけるCMIの訴え数は少年院収容少年が最も多く、次いで少年鑑別所収容少年で、対照群が最も少なく、刑法犯少年ではCMIの訴え数が多いことを税所らは報告している¹²⁾。刑法犯少年にCMI

Table 2 Means and standard deviations of the number of "yes" response by the control and the delinquency group.

Section	Boys (M ± SD)				Girls (M ± SD)			
	Control	Delinquency	Whole boys	p of T-test	Control	Delinquency	Whole girls	p of T-test
A	0.2381 ± 0.4364	0.2857 ± 0.4629	0.2619 ± 0.4450	0.7334	0.2857 ± 0.4688	0.2857 ± 0.4688	0.2857 ± 0.4688	1.0000
B	0.2857 ± 0.5606	0.5714 ± 0.7464	0.4286 ± 0.6678	0.1685	0.2857 ± 0.4688	0.5714 ± 0.6462	0.4286 ± 0.5645	0.1921
C	0.6667 ± 1.0165	1.7619 ± 1.5781	1.2143 ± 1.4234	0.0108	0.6429 ± 1.3363	3.3571 ± 2.2398	2.0000 ± 1.8442	0.0006
D	0.8571 ± 0.8536	0.9524 ± 0.9735	0.9048 ± 0.9055	0.7378	0.7857 ± 0.8926	1.7143 ± 0.8254	1.2500 ± 0.8597	0.0083
E	0.1429 ± 0.3586	0.5238 ± 0.5118	0.3333 ± 0.4771	0.0080	0.1429 ± 0.3631	0.7857 ± 0.4258	0.4643 ± 0.3957	0.0002
F	0.0476 ± 0.2182	0.0952 ± 0.3008	0.0714 ± 0.2607	0.5604	0.0 ± 0.0	0.1429 ± 0.3631	0.0714 ± 0.2568	0.1530
G	0.3810 ± 0.4976	0.7143 ± 0.4629	0.5476 ± 0.5038	0.0302	0.0714 ± 0.2673	0.8571 ± 0.7703	0.4643 ± 0.5766	0.0013
I	0.7619 ± 0.8891	2.0000 ± 1.4832	1.3810 ± 1.3606	0.0022	1.6667 ± 2.0656	1.9091 ± 1.4445	1.8571 ± 1.5830	0.7422
J	0.2381 ± 0.5390	1.0476 ± 1.6576	0.6429 ± 1.2845	0.0395	0.2857 ± 0.7263	1.3571 ± 1.5495	0.8214 ± 1.2101	0.0271
K	0.1905 ± 0.4024	0.5714 ± 0.5976	0.3810 ± 0.5389	0.0200	0.0714 ± 0.2673	0.4286 ± 0.5136	0.2500 ± 0.4094	0.0292
L	0.1429 ± 0.3586	0.4286 ± 0.5071	0.2857 ± 0.4572	0.0413	0.1429 ± 0.3631	0.5714 ± 0.5136	0.3571 ± 0.4447	0.0170
C + I + J	1.6190 ± 1.8568	4.8095 ± 3.7097	3.2143 ± 3.3169	0.0011	2.2857 ± 2.3346	7.1429 ± 4.4003	4.7143 ± 3.5223	0.0012
A ~ L	3.9048 ± 3.4045	9.0476 ± 5.7661	6.4762 ± 4.7349	0.0011	4.0000 ± 3.4641	12.4286 ± 5.7340	8.2143 ± 4.7370	0.0001
M	1.7143 ± 2.3483	4.5714 ± 2.5411	3.1429 ± 2.4466	0.0005	2.5000 ± 2.3452	4.3571 ± 2.3405	3.4286 ± 2.3429	0.0458
N	0.3333 ± 0.6583	0.7619 ± 1.0443	0.5476 ± 0.8729	0.1195	0.0714 ± 0.2673	1.0000 ± 0.7845	0.5357 ± 0.5860	0.0003
O	0.3333 ± 0.6583	1.0476 ± 1.1170	0.6905 ± 0.9168	0.0157	0.8571 ± 0.6630	1.0714 ± 0.9972	0.9643 ± 0.8468	0.5091
P	0.3333 ± 0.5774	0.9524 ± 1.1170	0.6429 ± 0.8891	0.0296	0.5714 ± 0.9376	1.2857 ± 1.0690	0.9286 ± 1.0055	0.0714
Q	1.0000 ± 1.3416	3.3333 ± 1.7127	2.1667 ± 1.5384	0.0000	1.3571 ± 1.4469	2.5714 ± 1.6508	1.9643 ± 1.5522	0.0485
R	0.3333 ± 0.6583	2.5238 ± 1.7210	1.4286 ± 1.3029	0.0000	0.6429 ± 0.9288	2.3571 ± 1.1507	1.5000 ± 1.0457	0.0002
M ~ R	4.0476 ± 4.6634	13.2381 ± 6.4413	8.6429 ± 5.6231	0.0000	6.0000 ± 3.5734	12.7857 ± 4.2999	9.3929 ± 3.9534	0.0001
C + I + J, M ~ R	5.6667 ± 6.0028	18.0476 ± 9.2330	11.8571 ± 7.7872	0.0000	8.2857 ± 5.4692	19.9286 ± 6.6386	14.1071 ± 6.0821	0.0000
TYR	8.0476 ± 7.2421	22.1429 ± 11.0331	15.0952 ± 9.3321	0.0000	10.0000 ± 6.5867	25.2857 ± 7.7004	17.6429 ± 7.1652	0.0000
n	21	21	42		14	14	28	

Table 3 Distribution of the criterion type by the control and the delinquency group.

		I	II	III	IV	Total
Boys						
Control group	n	10	6	5	0	21
	%	47.6	28.6	23.8	0.0	100.0
Delinquency group	n	1	3	7	10	21
	%	4.8	14.3	33.3	47.6	100.0
Total	n	11	9	12	10	42
	%	26.2	21.4	28.6	23.8	100.0
χ^2 -test		$\chi^2 = 18.6969$, d. f. = 3, p = 0.0003.				
Girls						
Control group	n	6	4	4	0	14
	%	42.9	28.6	28.6	0.0	100.0
Delinquency group	n	0	1	7	6	14
	%	0.0	7.1	50.0	42.9	100.0
Total	n	6	5	11	6	28
	%	21.4	17.9	39.3	21.4	100.0
χ^2 -test		$\chi^2 = 14.6182$, d. f. = 3, p = 0.0022.				

の訴え数が多いのは、拘束による影響としているが、むしろ情緒障害の程度によることを第一義的に考えた方が理解しやすい。

Brodmann らは、CMI において訴え数が195項目中30以上を情緒障害としており^{10),11)}、情緒障害では訴え数が多くなり、TYR が大きくなることが理解できる。教育相談事典によると、情緒障害を「欲求不満や葛藤が解消されないで、たえず強い情緒反応を起こすようになる。こうした情緒的適応障害の状態」と定義している¹⁹⁾。簡易質問紙票の成分因子である不安、緊張、欲求不満¹³⁾が情緒障害の根底であり本質であると考えられるので、TYR は情緒障害の指標とすることができ、男子では73項目中20以上、女子では25以上は情緒障害としてよいと考えられる。

2) 訴えの内容

区分「はい」応答数の平均が対照群より有意に非行群が大きい区分は、C (心臓循環系)、E (筋骨格系)、G (神経系)、J (疾病に対する関心)、K (既往症)、L (習慣)、M (不適)、Q (怒り)、R (緊張)であり、これらは男女共通であった。男子非行群のみが有意に大きい区分はI (疲労)、O (不安)、P (過敏)であり、女子非行群のみが有意に大きい区分はD (消化器系)、N (憂うつ)であった。非行群が有意に大きい「はい」応答率で、かつ50%以上の「はい」応答率を示した項目は、男子では「23. つめをかむくせがありますか」、「25. 運動や勉強すると疲れきってしまいますか」、「44. 見知らぬ人や場所が気にかかりますか」、「46. いつも相談する相手がそばにいてほしいですか」、「63. ちょっとしたことがカンにさ

わって腹がたちますか」、「64. 人からさしずされると腹がたちますか」、「65. 人からじゃまされていらいらしますか」、「70. 夜中に急に物音がしたりするとおびえますか」、「71. こわい夢で目のさめることがありますか」であり、女子では「8. 胸や心臓のところに痛みがありますか」、「9. 心臓がドキドキすることがありますか」、「11. よく息苦しくなることがありますか」、「18. よく胃が痛みますか」、「20. 肩や首すじがこりますか」、「22. よくひどい頭痛がしますか」、「44. 見知らぬ人や場所が気にかかりますか」、「51. よく泣きますか」、「56. 感情を害しやすいですか」、「61. すぐかっとなったりいらいらしたりしますか」、「68. 急な物音でとび上るように驚いたりふるえたりしますか」、「70. 夜中に急に物音がしたりするとおびえますか」、「71. こわい夢で目のさめることがありますか」であった。非行群は不安、緊張が強く、不適応、興奮の傾向の訴えが多い。女子は男子より精神症状の訴え以外にも、自律神経失調に伴う身体症状を多く訴えることが特徴的である。

3) 「症状の多さの程度」の型分布

男子では対照群は、型が76.2%に対し非行群は、型が80.9%、女子では対照群は、型が71.4%に対し非行群は、型が92.2%で、非行群の80~90%は情緒障害の傾向が強い型、型を示している。少年院、少年鑑別所収容少年におけるCMIにおいても、少年院では型、少年鑑別所では型が多いことが報告されている¹²⁾。本報告の対照群と既報の児童相談所の対照群¹⁵⁾の型分布には有意差が認められず、対照群の70~76%は型、型である。本報告の少年鑑

別所収容年少少年の簡易質問紙票の型分布は児童相談所の非行群、学校不適応群、クライアント群と比較しても型、型が著しく多く、情緒障害の傾向が極端に強いことを示している。

ま と め

現在の少年非行の動向は新しい型の非行の発生と非行の低年齢化にあり、中学生の占める刑法犯少年の割合が大きくなっている。14歳以上16歳未満の少年鑑別所収容年少少年男子21名、女子14名（非行群）とそれらに性、年齢をマッチさせた同数の対照中学生に簡易質問紙票による調査を行った。簡易質問紙票の各質問項目の「はい」応答率、区分の「はい」応答数の平均、TYRの平均、「症状の多さの程度」の型分布を両群間で比較した。

非行群に有意に高かった「はい」応答率の項目数は男女それぞれ、身体症状が男子7項目、女子10項目、精神症状が男子12項目、女子7項目であった。非行群は不安、緊張が強く、不適応、怒りの訴えが特に多かった。非行群女子は自律神経失調に伴う身体症状の訴えが多かった。非行群の訴えは多く、TYRは著しく大きく、男子では20以上、女子では25以上は情緒障害としてよいと考えられる。「症状の多さの程度」の型は対照群が型、型が多いのに対し、非行群は型、型が著しく多く、情緒障害の程度、環境への不適応の程度を示す指標として有効であると考えられる。

本論文の要旨は第36回日本学校保健学会（平成1年10月、東京）において発表した。

文 献

- 1) 官報資料版：犯罪白書のあらまし、官報 No.1572（昭和63年10月19日）、7 - 10、大蔵省印刷局、東京、1988
- 2) 内閣府編：青少年白書（平成13年版）、157 - 160、財務省印刷局、東京、2001
- 3) 溝上満男：少年非行の動向と特質。厚生 の 指 標、25(12)、48 - 54、1972
- 4) 徳山孝之：最近の動向と特徴。保健の科学、25、219 - 222、1983
- 5) 江幡玲子：思春期の非行。からだの科学、

- No.113、94 - 98、1983
- 6) 日本情報教育研究会編：昭和61年日本の白書、46 - 48、清文社、東京、1986
- 7) 樋口幸吉：思春期の逸脱行動。小児科MOOK、No.34、258 - 267、金原出版、東京、1984
- 8) 内閣府編：青少年白書（平成13年版）、41 - 42、財務省印刷局、東京、2001
- 9) 樋口幸吉：少年非行。新小児医学大系、第14巻B、163 - 171、中山書店、東京、1985
- 10) Brodmann, K., Erdmann, A. J. Jr., Lorge, I., Gershenson, C. P. and Wolff, H. G.: The Cornell Medical Index-Health Questionnaire III. The evaluation of emotional disturbances. J. Clin. Psychol., 8, 119-124, 1952
- 11) Brodmann, K., Erdmann, A. J. Jr., Lorge, I., Gershenson, C. P. and Wolff, H. G.: The Cornell Medical Index-Health Questionnaire IV. The recognition of emotional disturbances in a general hospital. J. Clin. Psychol., 8, 289-291, 1952
- 12) 税所篤郎、山田 弘：コーネル健康指標（CMI）の少年鑑別所収容少年への適用について、矯正医学、18(1)、14 - 18、1969
- 13) 森 忠繁、林 正、外川勝巳：中学生用簡易健康調査質問紙票の作成の試み（第5報）因子的妥当性の検討。学校保健研究、29、32 - 40、1987
- 14) 森 忠繁、林 正、外川勝巳、板持紘子：中学生用簡易健康調査質問紙票の作成の試み（第7報）登校拒否の患者 - 対照研究。学校保健研究、30、43 - 50、1988
- 15) 森 忠繁、林 正、外川勝巳、板持紘子：中学生用簡易健康調査質問紙票の作成の試み（第8報）児童相談所クライアントの場合。学校保健研究、31、35 - 42、1989
- 16) 内閣府編：青少年白書（平成13年版）、252 - 267、財務省印刷局、東京、2001
- 17) 関 力編：非行少年はこう扱われる - 発見・調査・審判・処遇の実態 -、有信堂高文社、東京、1998
- 18) 三宅一郎、山本嘉一郎：SPSS統計パッケージ、基礎編、東洋経済新報社、東京、1980
- 19) 桂 広介、沢田慶輔、倉石精一：教育相談事典、301 - 302、金子書房、東京、1978